トーマ
×
神里綾人
成年向
まずは熱

温度をわけることに
相手を慮ることに
理由を欲しがる
難儀な恋をしている

若？

トーマ

もう今終わらせたところだよ

それに然程無理もしていないさ

またそのようなことを…

こんな時間まで…お身体に障りますよ

何だいトーマ随分と含みが――

…ほら、
冷えてるじゃ
ないですか

…そうかな

トーマの手が
あたたかいだけ
じゃないかい？

トーマが捕まった
騒動から
幾日か過ぎた

幸い旅人の機転で
その場を免れた…
らしい

信頼できるものから
そう聞いてはいるが
私の目ではまだ
確かめられていない

その場を動くことも
出来なかった私に
何が言えるだろうか

彼は

助けに向かわなかったことを一言も責めはしないだろう
真心までよく出来た家臣だ
助けに向かおうとしたものなら私をいさめさえするだろう
助けになれど助けられることはゆるさないような
だけど

——それでも

ずっと、彼を裏切ったかのような心地でいる

お兄様！

お帰りなさいませ

最近は随分とお早いのですね

丁度仕事が回ってこなくてね

そうですか！
それは…

それは、
お兄様にとっては
善いことだと
思います

ぎゅっ

お兄様は
度々無理を
されて
いますから…

そうかな

綾華が

言わんとしている
こともわかる

城下で夜を
過ごすのも
珍しくない私が

素直に屋敷に
帰ってきている

……木漏茶屋に
先客がいる日から

なにも会いたく
ないわけではない

ただ、

許される覚悟が
私にはないというだけで

お兄様？
はっ

大丈夫ですか？
やはり体調が…
ああ
すこし
疲れている
のかな
心配しなくても
大丈夫だよ

……どうか、
ご無理のなきよう

ありがとう

それだけ
手放せない
ものなのだと
突きつけられて
いるような

――百代、いますか
こちらに

明日木漏茶屋に寄ります
…人払いを
当主様の仰せのままに

あの手は

私が望めば
糾弾のひとつや
ふたつ――

いっそ
怒ってくれれば
いいのに

失礼

ああ、
やっぱり若だ

お休みに
寄られたので？

なにか
軽食でも用意
しましょうか

っ、
はは

なんですか
ちょっと……

いやね
君が
あんまりにも

あんまりにも
可愛いものだと
おもってね

へ？

……本当に

ギョ
ン

若?!
お戯れを…
そう見えるかな
そうではなくて!
ご用事が
あったのでは…

これが用事だよ

今日は私を主人として扱わないように

これは命令だよ、トーマ

…未だ私を想ってくれるのなら

聞いてくれるね

……若、それでは

オレを貴方のものに
していただけますか

あ、

…何だいちょっと

すみません、強情だなと思って……

君ねえ……

全く…
……っ

は…、
トーマは、あたたかいね

昔からこうだったような気もするけれど
神の目も関係しているのかな……

……若

そうだとしたら
きっとオレは貴方のために炎を授かったのでしょう

この身と炎は

貴方の、
貴方たちために

行く道が少しでも
照らせるように

——帰ってくる場所が
少しでも暖かいように

……灼いては
くれないくせに？

私は
君に叱られたいのに

では

もうそのような寂しいことを仰られないように
とびきり大事にさせてください

ひ、

…っ、ん、

声、きかせてください

ミッ♡

くちゅっくちゅっ♡

きみ、も……

好きものだね

そりゃあ

惚れていますから

はぁ

あ、っ♡

トー、マ

は、ぁ…

ん…っ

もう、君がいい

息とめないでくださいね

う、ん

ガクッ…

っ、

ビクッ♡

挿入った…っ

ずぷぷぷッ

外せと
言えない
わたしで…

ッ、
いいえ、

いいえ…！

あッ
とーまッ
きゅ、に
激し…っ

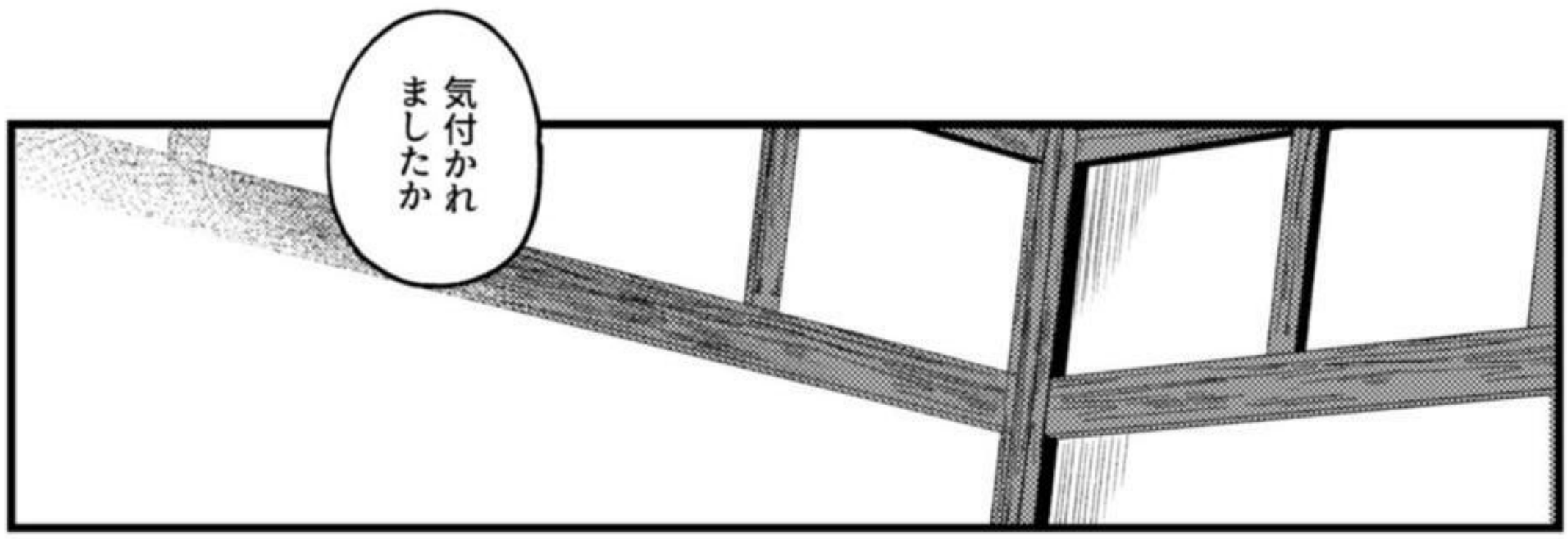
あ。
ッ♡

あッ

パンッ
パンッ
パンッ

すみませ…
止められな、

若、
若……っ


気付かれましたか

おはようございます

……どのくらい眠っていたのかな

ほんの二時間ほどですよ

まだ夜の入りです

そんなものか

オレとしては休んでいてほしいのですが…

いや、少しすれば戻るよ

なにか…甘味でも用意してくれるかい？

承知しました

あと汁物を

……君が作る
あれが
恋しくてね

頼むよ

本当に

それが

あの人の弱さに
なっているの
だとしたら

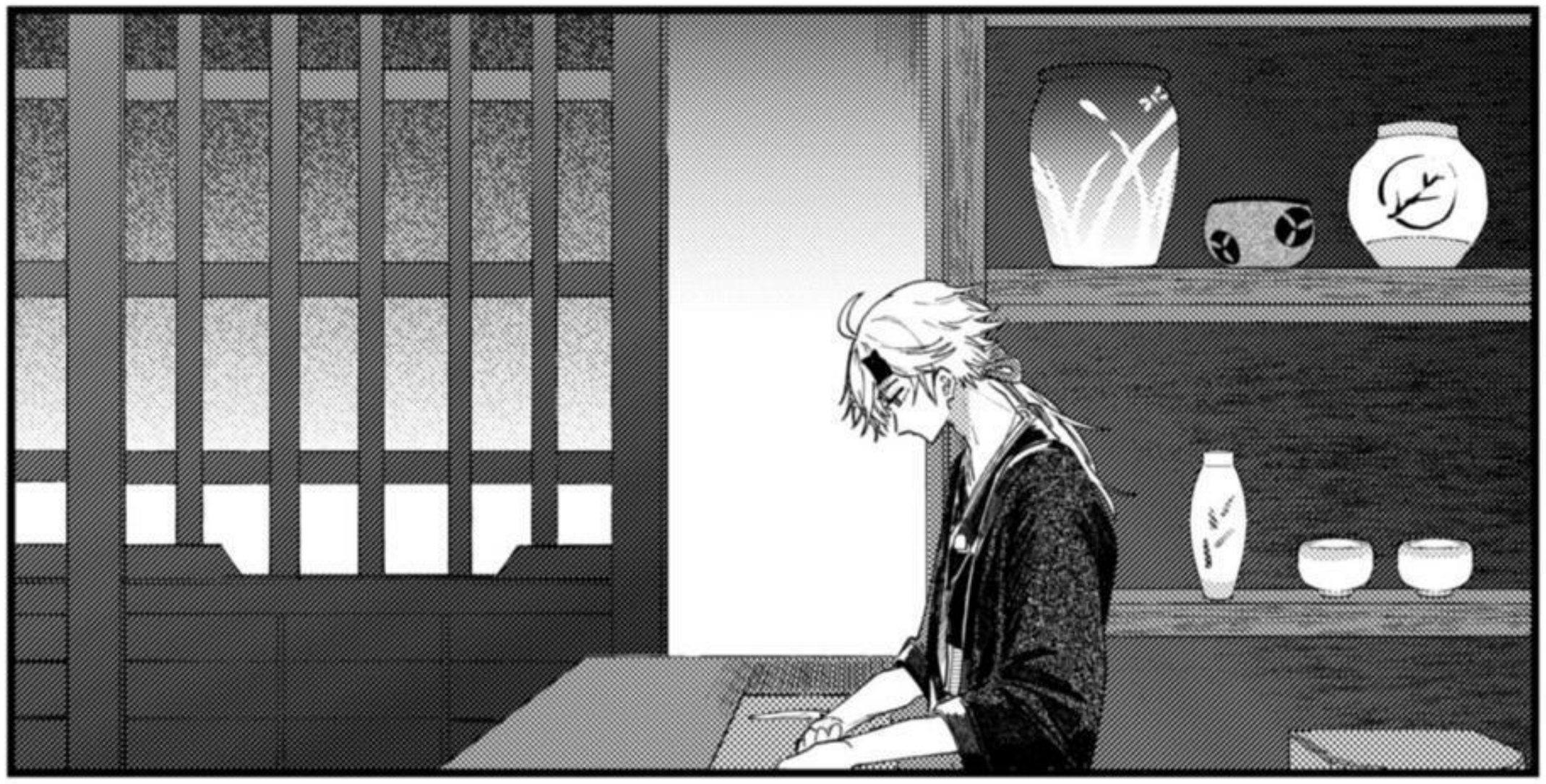
オレ以上に

あの人は
わかっている
はずなのに

それでも

側においてゆるしてくれているのは、

あなただ



あいして
いるだけなん
だけどなあ

依然、
空は高く

湿度の高い
この国では
どうにも
息が難しい

それでも
確かに
この熱が